



第
2530
地区

福島西ロータリークラブ会報

会長 相澤 隆
幹事 佐藤 卓立

クラブ奉仕委員会
委員長

会報・雑誌・広報・
IT 小委員会委員長

黒澤 信之

大平 謹一郎

令和元年 8 月 26 日(月) 第 7 回 通算第 1541 回例会

・例会日/月曜日 12:30 ・例会場/ウェディング エルティ ☎(024)535-6188

事務所/福島市栄町 5 の 1 ホテル辰巳屋 7 F ☎(024)524-1010・FAX(024)524-1011 Eメール/f-rotary@guitar.ocn.ne.jp

第 7 回例会 点鐘 12:30

◇開会点鐘 相澤 隆会長

◇ロータリーソング「それでこそロータリー」

ソングリーダー 高橋 智弘 会員

◇会長あいさつ 相澤 隆会長

皆さんこんにちは。

本日のプログラムは、7 月に開かれました「クラブ研修リーダー会議」と「ロータリー財団セミナー」、「会員増強・拡大・ロータリー情報委員会セミナー」の参加報告となっております。

後ほど、私の方からも一部について報告をさせていただきますが、このうちの「会員増強セミナー」に出席しました際に、久米委員長から会津若松中央ロータリークラブの福西宣孝さんを紹介していただきました。会場で、ロータリアン歴が浅いということをお話しましたところ、参考になればということで、この冊子を数日後に送ってくださいました。

福西さんは、若松中央クラブ設立時からのメンバーで、10 年目に会長を務めることになったのを機に、毎週の例会で話した会長スピーチを中心にまとめた「私のやさやかなロータリー体験」という冊子を自費出版しました。また、それから 10 年を経過し、その後にクラブで行ったスピーチなどが相当量になったことや、年齢も 70 歳を迎えたのを機に、第 2 集を出版されたということです。

今回送っていただいたのは、その第 2 集で、内容を紹介しますと、福西さんが RI2530 地区の職業奉仕委員長を務められていたこともあり、第 1 部は「職業奉仕」についての講話集が収録されています。以下、第 2 部は「ロータリーを学ぼう」というテーマで、新会員に対するオリエンテーション教材という目的も兼ねて、会報(週報)に掲載した原稿。第 3 部は「ロータリー理論に関する原稿」。第 4 部は「一般の雑文集」。そして最後の第 5 部は、福西さんが所属する県弁護士会の会報に寄稿した文章が収録されています。

私もまだ全部は読んでおりませんが、一例として「一般の雑文集」の中から、フジテレビ系列の番組「テレビ寺子屋」を見て話された、スピーチの一部を朗読させていただきます。

「テレビ寺子屋」では、いろんな講師が 30 分弱の講話をする。

先日は、山元加津子という養護学校の先生が「雪絵ちゃん」という生徒の話をした。雪絵ちゃんは、多発性硬化症(MS)という難病を患い、車椅子生活だった。雪絵ちゃんは、いつも、「よかったね」という言葉を口にしていた。

山元先生が出席したある会合で、障害者のことが話題になった。その際、障害者の現実を知らずに、侮蔑的発言をする人がいた。山元先生は、怒りを込めて、その発言に立ち向かった。

山元先生が、雪絵ちゃんに、その時の話を聞かせた。すると、雪絵ちゃんは、「そういう(侮蔑的な)発言をする人がいて、よかったね。その人がいたから、山元先生は、身障者の現実について話ができて、皆に理解してもらえたんだから」と答えたという。

雪絵ちゃんは、毎夜床に就くと、「よかったね探し」をしているそうだ。その日一日の出来事の中で、何か一つ、いいことを探し出し、「よかったね」とうなづくとのことだ。

そんな雪絵ちゃんは、多発性硬化症という病のために、若い命を閉じた。山元先生は、当時、海外旅行に行くはずだった。しかし、出発当日、何故か飛行機が欠便になった。しかも、それが 2 度続いたため、予定を変更した。そのため、雪絵ちゃんの葬式に参列できた。

その後まもなく、山元先生のもとに雪絵ちゃんからの手紙が届いた。その手紙には、「SNOW に生まれてきて大成功」と書いてあったという。雪絵ちゃんは、友人から「SNOW」という仇名で呼ばれていた。つまり、雪絵ちゃんは、多発性硬化症という難病を抱えた自分に生まれてきたことを、そのまま受け入れていたのだ。

雪絵ちゃんは、自分を苦しめているはずの病気についても、日頃から、「病気になってよかったね」と言っていたという。「病気になったおかげで養護学校に入った。養護学校に入ったおかげで山元先生にも会えた。親しい友人たちにも会えた」と口にしていたという。

私は、山元先生の話聞いて涙を抑えきれなかった。雪絵ちゃんの発する「よかったね」は、私の耳の中で神々しく響き渡った。雪絵ちゃんという一人の少女に、宗教性すら感じるに至った。

私などは、60 年も生きてきて、未だに、煩惱に引きずられた毎日を送っている。日常生活の些細な

ことに立腹し、思い悩み、愚痴をこぼしている。雪絵ちゃんは、私の何百倍もの苦悩を背負いながら、何事もないように、飄々として生きていた。

私から見れば、聖人、覚者(かくしゃ)の域に達している。雪絵ちゃんは、苦悩、煩悶(はんもん)の経験を通して、悟りの境地に至ったのだろうか。それとも、このような経験を経ずに、宗教的天才としての天賦(てんぷ)の才を、生まれながらに与えられたのだろうか。

いずれにしても、私には、山元先生の語る雪絵ちゃん像に、聖母マリアの面影が見え隠れした。

以上、一例を紹介させていただきました。

私としましては、福西さんから非常に良い本をいただいたと感謝しておりまして、「地域や職業、年齢の垣根を越えて、こういった出会いや、友情、思いやりを体験できるというのが、ロータリーの素晴らしいところかな」と実感した次第であります。

さて、あいさつが少し長くなってしまいました。近く予定されている地区行事としましては、今月31日に郡山市のホテル華の湯で「社会奉仕・国際奉仕委員会セミナー」と「公共イメージ・IT委員会セミナー」が開催されます。

各委員長、地区委員の皆さんには、お忙しい中恐縮ですが、対応をよろしく願いまして、あいさつとさせていただきます。

◇幹事報告 佐藤卓立幹事

○例会変更のお知らせ

・福島北RC27日火例会は、本日開催の県北第二分区インターシティミーティングへの振替休会となっております。

○その他のお知らせ

・8月31日(土)10時より社会・国際奉仕委員会セミナーがホテル華の湯にて開催されます。

当クラブからは高梨会員、砂糖宗弘会員が出席されます。

・8月31日(土)13時より公共イメージITセミナーがホテル華の湯にて開催されます。

当クラブからは黒澤会員が出席されます。

・8月ロータリーレートは1ドル108円となりますのでお知らせ致します。

委員会報告

◇出席・スマイリングBOX小委員会 黒澤信之委員長
○相澤 隆会長＝本日は、セミナー等の報告をさせていただきます。大分に時間が経ってしまい、内容が不明確になってしまっているかもしれませんが、お許しください。

○佐藤卓立幹事＝相澤会長・久米会員セミナー報告よろしくお願い致します。

○久米允彦会員＝拙いお話にお付き合い下さい。

○根本いずみ会員＝吹く風が少しずつ涼しくなってきましたね。

—————セミナー報告スピーチによせて—————

○大平謹一郎会員 ○齋藤武二会員 ○佐藤宗弘会員
○佐藤慶行会員 ○高梨哲男会員 ○高橋智弘会員
○野尻榮一会員 ○黒澤信之会員

本日のスマイリングBOX集計12件 24,000円
ご協力頂きました皆さん、ありがとうございました。

◇本日のプログラム—————セミナー報告

○ロータリー財団セミナー報告 久米 允彦会員



本年度の財団セミナーは、去る7月20日に福島県農業総合センターを会場として開催されました。

昨年(2018年)の12月にも前年度セミナーとして開催され、同じ内容の研修と思い聊(ちやう)げんなりして参加しましたが、芳賀ガバナーの方針なのか可成り具体的な内容で、居眠りする時間の余裕もありませんでした。昨年・本年と続けて財団申請関係を辞退していますので、来年度は申請したいと思います。そのためには、今年度中に概要を計画して予算化し、来年1月までに「覚書(MOU)」を提出しなければなりません。

そこで最大の悩み事が発生します、それは事業資金の捻出です。事業総予算の最大50%は財団から手当てされますが、それに相当するクラブ独自の予算を捻出しなければなりません。

我がクラブは会員数の減少に伴い絶対的事業額が減少しています。大きな奉仕事業(例えば少年野球大会)の予算規模は50万円にも達します。今後事業計画として継続することさえ危ぶまれます。

以上のような環境背景を鑑み、事業規模が過大でなく、持続可能な奉仕活動も検討しなければならぬと思います。

ただ、連続して同様な趣旨の奉仕事業は財団交付金の対象とはなりませんから、それ等のことも視野に入れて検討しなければなりません。

これは飽くまでも夢物語になりますが、分区の総意で同一の奉仕活動を計画して実施すれば、継続性のある事業が展開できるのではないかと考えています。

福島が社会に誇れるイベントなどを企画しておいになる団体を対象に、財団交付金を支援できる奉仕活動などを想定していますが、果たして実現可能なもののでしょうか。

○「クラブ研修リーダー会議」・「会員増強セミナー」報告

相澤 隆会長

7月13日に開かれた「クラブ研修リーダー会議」と7月27日の「会員増強・拡大・ロータリー情報委員会セミナー」の模様を報告させていただきます。

「クラブ研修リーダー会議」には、主催側から芳賀



裕ガバナーとパストガバナー、各分区のガバナー補佐、地区研修委員、RLI(ロータリー・リーダーシップ研究会)委員、DL(ディスカッションリーダー)ら約30人、受講者として各クラブの会長または幹事と研修リーダーな約70人の、計約100人が参加しました。

研修メニューとしては、2019年RI研修リーダーの山崎淳一氏が「奉仕の心を学び、伝え、実践しよう」という演題で、ロータリーの変化やロータリーの使命について講演を行った後、RLI日本支部の中村靖治ファシリテーター委員長が進行役を務め、「クラブの未来を語ろう」をテーマにグループディスカッションを行いました。

山崎氏の講演内容ですが、初めに2019年国際協議会と規定審議会などの最新情報を説明しました。このうち国際協議会関係では、マーク・ダニエル・マローニー RI会長のスピーチ内容から、2019-20年度の会長テーマである「ロータリーは世界をつなぐ」、さらに、強調したいこととして「ロータリーを成長させる」「家族の重要性」「ロータリーリーダーと仕事との共存」「国連との関係」の4項目を挙げました。

一方、規定審議会で採択された主な項目としては、例会と出席関係の「欠席のメークアップに関する規定を改正する件」で、「例会の定例の時の前14日または後14日」という規定を、「同年度以内」に変更したこと。会員関係では「クラブの構成を改正し職業分類の制限を廃止する件」として、「専門職種」とは異なる職業を持つ会員もいることを反映するため、「職業」という語を追加したほか、現行の職業分類の制限も廃止したことなどを紹介しました。

続いて、ロータリーの変遷と本質についての説明では、「戦略計画が叫ばれたあたりから、RI理事会の決定、規定審議会の審議・採択内容、それら全般にわたる新設、変更、削除と、国際ロータリーの目まぐるしい変化を感じる」と述べ、その根底には会員の減少、それも先進地域での減少が起因していると分析しました。

ただ、ロータリーの変化は目的地に達するまでの道標、コンパスのようなもの。時代や環境の変化に、的確に対応している変化であり、「ロータリーの本質や哲学は、何一つ変化してはいない。ロータリーは知れば知るほど面白くなるし、関われば関わるほど自分を磨いてくれる」として、「ロータリーの根源は善意。もし善意というものがなければ、ロータリーはただの社交クラブだ。職業は金儲けのためでしかなく、社会奉仕というのもし施しにすぎず、国際奉仕も社交以外の何物でもない」。

さらには「奉仕とは、世のため人のために何かを

すること。ロータリーの奉仕とは職業奉仕であり、社会奉仕である。クラブ奉仕は親睦に近いし、国際奉仕は社会奉仕の延長にある。青少年奉仕はすべての奉仕に関わる」などと、話されました。

また、ロータリーの目的について、「原文の和訳は、難解で理解に苦しむことも多いが、要はロータリアン一人ひとりが、どう解釈するかの問題」としまして、山崎氏流に表現すると、ロータリーの目的は“奉仕の心を学び、伝え、実践しよう”であり、①(1つ目として)多くの皆さんと、ゆるぎない信頼関係を構築する②職業倫理を高め、仕事を通じて社会に貢献する③家庭を愛し、仕事を愛し、社会を愛して生きていく④国際理解を深め、平和を推進する。この4つを一体として実践し続けましょうーということになるのだそうです。

引き続き行われたグループディスカッションでは、出席者が各8人程度の10ブロックに分かれまして、「クラブの未来を語ろう」というテーマで討論を行いました。具体的には、ディスカッションリーダーの進行で、「クラブの例会はどうあるべきか」「クラブの会員増強計画があるか」「あなたが考えるクラブの未来像は」などについて、各クラブの現状を述べ合うとともに、望ましい未来像について意見を交わしました。

なお、RLIでは、DLを絶賛募集中ということですので、各分区から3～5名の推薦を求めていますので、「やってもいい」という方がおられましたら、ぜひ申し出ていただきたいと思います。

引き続きまして、7月27日に開かれました「会員増強・拡大・ロータリー情報委員会セミナー」の報告させていただきます。当クラブからは、久米委員長と私の2人で参加して参りました。

セミナーのメインは、今年度・第1地域ロータリーコーディネーターの菅原裕典さんの講演で、「戦略計画と会員増強」をテーマに約1時間半にわたって話をされました。

菅原さんは、「会員増強のためには、まずクラブの現状を把握することが第一」として、①会員の多様性②職業分類のバランス③クラブの存続性④会員が活動を続ける理由、退会する理由⑤クラブの革新性と柔軟性⑥地域社会におけるクラブの認知度⑦クラブで活用できるデジタルコミュニケーション⑧会員以外の人が抱くクラブのイメージという8つの視点から現況を評価することが大事だと指摘しました。

具体的には、「かつては、入会の誘いは一つのステータスだったが、とにかく世の中が変化しており、変化への適応力が問われる」とか、「公共イメージ構築のためには、クラブの活動をより多くの人に知ってもらう必要がある」、「例会の価値観を高めるのが重要」などとアドバイスされました。

続いて、第2段階として挙げたのは「クラブのビジョンを描く」ことです。クラブが3～5年後の近

い将来に「こうありたい」と望む姿を思い描き、それを実現するための戦略計画と行動計画表を作成し、さっそく実行に移すこと、さらに、単年度で会員増強を成し遂げるのは無理であり、リストを引き継いでいくことが大切だと強調されました。

また、入会への魅力を高めるために、入会候補者へのアプローチの仕方として「まずは例会や奉仕活動に参加してもらい、実際にロータリーを体験してもらうのが効果的」としたほか、入会のメリットとして①奉仕活動を通じて地域社会に貢献できる②仕事上の人脈や生涯の友情を築くことができる③イベントの企画、人前でスピーチなど仕事に役立つスキルが身に付くーなど、具体的な例を挙げた上で、この入会のメリットをどう説明するかは「人によって価値観が違うため、相手の関心やニーズによって柔軟に対応すべきだ」と話されました。

このほか、強固な会員基盤を築くカギは現会員の維持にあるとして、「会員維持で最も重要なのは、会員の積極的な参加を促すこと。クラブ内でのコミュニケーションを高め、会員が参加できる様々な機会を設け、参加を奨励しましょう」と述べられました。

最後に参考として、ロータリーへの入会を働きかける時に、「ロータリークラブとは、自分自身と自分の職業を磨きながら、地域と国際社会に奉仕する

団体です。あなたも参加しませんか?」、あるいは「人生100年時代、ボケ防止に毎週ロータリーの例会に来て、健康増進を図りませんか?」といった勧誘トークまで伝授されました。

第2部では、2530地区会員増強・拡大・ロータリー情報委員会の林克重委員長が、委員会の取り組みを説明したほか、いわき平中央ロータリークラブの鈴木清友パスト会長、福島ロータリークラブの右近八郎会長、郡山南ロータリークラブの福舩透パスト会長が、事例発表を行いました。

このうち、特色のある取り組みを紹介しますと、いわき平中央ロータリークラブでは、新入会員に対して「ともにロータリーを楽しみましょう」ということで、メッセージを贈っているそうです。

また、郡山南ロータリークラブでは、80歳以上の会員のために「健康推進委員会」をつくって、血圧計を設置したり、食事のカロリーに配慮するなどして、体力・知力の維持・向上に努めているとのことでした。

以上、簡単ですが「クラブ研修リーダー会議」と、「会員増強・拡大・ロータリー情報委員会セミナー」の報告とさせていただきます。

◇閉会点鐘

相澤 隆会長

※会報カメラ担当

大平 謹一郎会員

9月プログラムご案内[基本的教育と識学率向上月間]

月 日	内 容	時間・場所
2(月)	【通常例会】 ゲストスピーチ 日本製鉄顧問 鈴木洋様 * 9月誕生祝い * 「四つのテスト」唱和 渡辺敬蔵委員長	12:30～「エルティ」
9(月)	【通常例会】 新会員スピーチ 根本いずみ会員(東邦銀行西福島支店長) セミナー報告 社会・国際奉仕委員会 IT・公共イメージ委員会 * 「友」8月号紹介 大平謹一郎委員長	12:30～「エルティ」
16(月)	祝日のため休会	
23(月)	祝日のため休会	
30(月)	【通常例会】 ゲストスピーチ 信夫山研究会代表 浦部博様 (福島RC所属)	12:30～「エルティ」
2(月)	9月理事会	18:30～「峰 亀」

●他RC例会場・例会日

クラブ名	曜 日	例 会 場 名	クラブ名	曜 日	例 会 場 名
福 島 R C	木曜日	クーラクーリアンテサンパレス	飯 坂 R C	木曜日	吉川屋
福 島 南 R C	水曜日	クーラクーリアンテサンパレス	福 島 北 R C	火曜日	クーラクーリアンテサンパレス
福島中央RC	水曜日	ザ・セレクトン福島	福 島 東 R C	金曜日	クーラクーリアンテサンパレス
福 島 21 R C	木曜日 18:30～	クーラクーリアンテサンパレス	福島しんたつRC	月曜日 18:30～	福島県青少年会館